

図書館ホームページの魅力〈19〉

～私と文学と図書館と～



小田 憲子

みなさん、こんにちは。長かった夏休みも終わり、いよいよ秋学期が始まりますね。夏休みの間に授業の感覚を忘れつつあった方も多いのではないのでしょうか。もちろん私もその一人です(笑)。そこでここでは、春学期に授業で学んだことや自主学習で学んだことを思い出すためにも、私のおすすめの図書館ホームページについて語っていききたいと思います。

本学の図書館ホームページには様々なコンテンツがありますが、今回は「世界を感動させた作家たち 世界の有名作家と作品」についてご紹介します。私は、ちょうど今から2年ほど前になるのですが、“Literature and the Arts”という英米文学について学が授業を受講していました。そこでは、イギリス、アメリカ、アイルランドなどのみなさんにも馴染みのある作家たちの作品を通して、文学に対する理解や知識を深めていくことができ、色んな意味で、今でも思い出に残る授業でした(笑)。その中でも、私は特に、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』、ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』、ジェイン・オースティン『プライドと偏見』について学んだ回が、とても深く印象に残っています。授業では先生が原文の書かれたプリントや、映画化されている作品はその映像を使って授業を進めてくださるのですが、当時、私は『不思議の国のアリス』と『プライドと偏見』の2作品に関しては名前とおお

まかな内容しか知らないという状況でした。授業で前述の作者ルイス・キャロルが、実はロンドンであったというお話を先生がくださった時、“これは読むしかない!”と思い、友達と授業後に図書館へ借りに行ったことを覚えています(笑)。『ロミオとジュリエット』に関しても、中学生の時に映画を観て以来だったので、作者シェイクスピアの背景なども交えてお話を聞いた後で作品と向き合うと、映画を観た当時とはまた違った視点で物語をとらえることができました。また、『ベーオウルフ』という古代英国の叙事詩についても授業の中で初めて学んだのですが、その後図書館で、何気なく検索したところ、それについて書かれた本が所蔵されていて驚いたことがあります。

本学の図書館には、今回ご紹介した作品以外にも、みなさんがよくご存じの文学作品が多数所蔵されています。上記の国のみならず、フランス、ブラジル、ラテンアメリカやアフリカなど、世界中の文学に触れることが可能です。私は、今、第三外国語で韓国語を受講しているのですが、外大の図書館に韓国文学もあるということに驚きました。

こんな風に授業で出会ったものはもちろん、今まで日本語では読んだことのある作品も、今度は洋書で読んでみるとまた違ったおもしろさや発見があるかもしれませんね。

おだ のりこ (英米語学科4年次生)